

# I 調査結果の概要

## 1 漁業・養殖業生産量

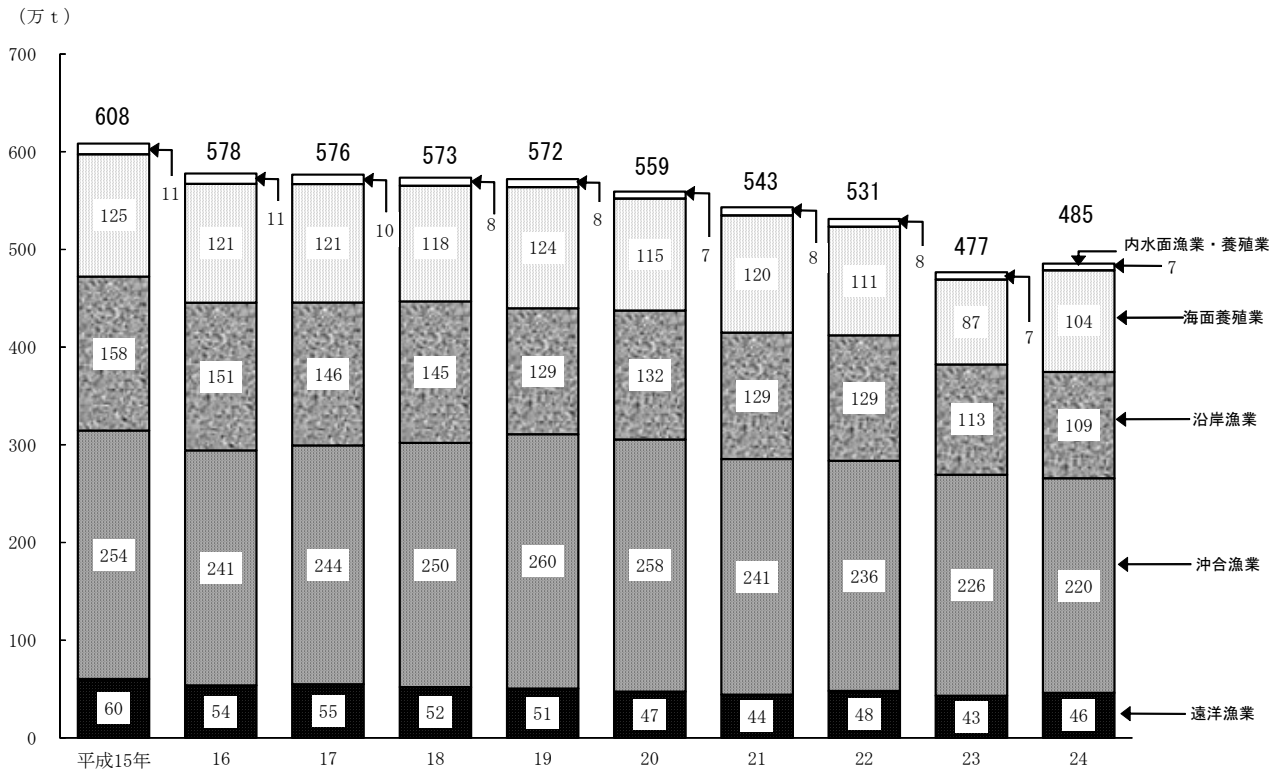
平成24年の我が国の漁業・養殖業の生産量は485万3,093tで、前年に比べ8万7,121t(1.8%)増加したものの、東日本大震災発生前年の平成22年との比較では45万9,594t(8.7%)の減少となっている。

このうち、海面漁業の漁獲量は374万6,763tで、前年に比べ7万7,336t(2.0%)減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は45万8,334tで、前年に比べ2万7,546t(6.4%)増加、沖合漁業は219万8,085tで、前年に比べ6万6,180t(2.9%)減少、沿岸漁業は109万345tで、前年に比べ3万8,701t(3.4%)減少した。

また、海面養殖業の収獲量は103万9,504tで、前年に比べ17万784t(19.7%)増加した。内水面漁業・養殖業の生産量は6万6,902tで、前年に比べ6,313t(8.6%)減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない。

(1) 海面漁業

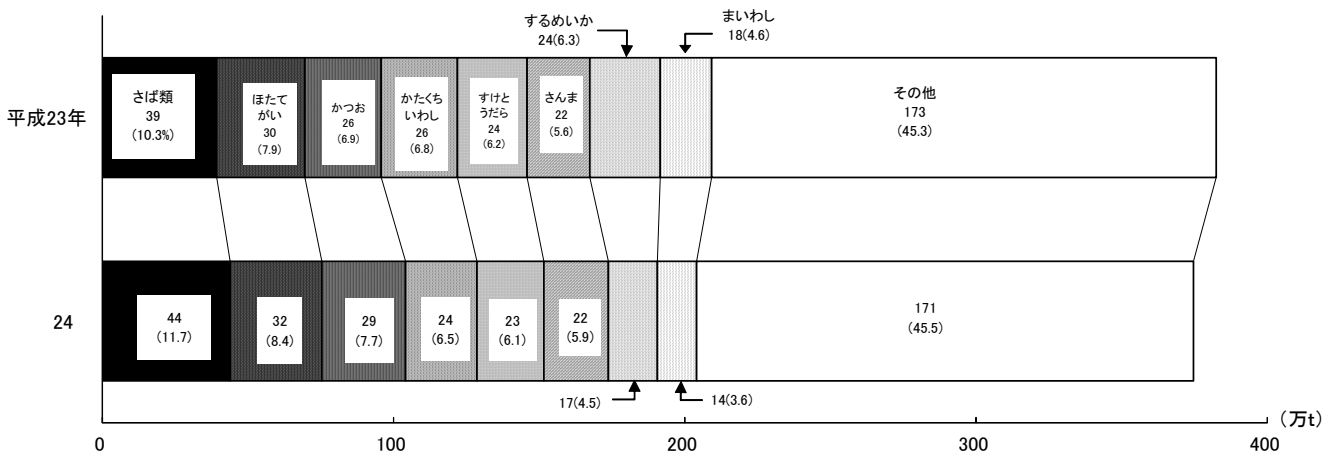
海面漁業の漁獲量は374万6,763 tで、前年に比べ7万7,336 t (2.0%) 減少した。東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は10万3,276 t、宮城県の漁獲量は15万2,912 tであり、前年に比べてそれぞれ2万3,066 t (28.8%)、2万3,512 t (18.2%) 増加したが、東日本大震災発生前の平成22年の漁獲量と比べるとそれぞれ3万3,140 t (24.3%)、7万1,676 t (31.9%) の減少となっている。また、福島県の漁獲量は4万4,771 tであり、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により操業自粛、出荷制限等の措置がとられたことから、前年と比べ5,007 t (10.1%)、平成22年と比べ3万4,168 t (43.3%) それぞれ減少した。

ア 主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、おきあみ類、そうだがつお類、しらす、びんなが、さめ類であり、減少した主な魚種は、あかいか、ます類、くろまぐろ、するめいか、まいわしであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が11.7%、ほたてがいが8.4%、かつおが7.7%、かたくちいわしが6.5%、すけとうだらが6.1%、さんまが5.9%、するめいかが4.5%、まいわしが3.6%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) さば類

漁獲量は43万8,269 tで、前年に比べ4万5,763 t (11.7%) 増加した。

これは、中・小型まき網等による漁獲量が減少したものの、大中型その他の1そうまき網、大型定置網等が増加したためである。

(イ) ほたてがいがい

漁獲量は31万5,387 tで、前年に比べ1万2,397 t (4.1%) 増加した。

これは、小型底びき網による漁獲量が増加したためである。

(ウ) かつお

漁獲量は28万7,777 tで、前年に比べ2万5,642 t (9.8%) 増加した。

これは、遠洋かつお一本釣、近海かつお一本釣等による漁獲量が減少したものの、遠洋かつお・まぐろ1そうまき網等による漁獲量が増加したためである。

(エ) かたくちいわし

漁獲量は24万4,738 tで、前年に比べ1万6,856 t (6.4%) 減少した。

これは、大中型2そうまき網等による漁獲量が増加したものの、大中型その他の1そうまき網等による漁獲量が減少したためである。

(オ) すけとうだら

漁獲量は22万9,823 tで、前年に比べ9,097 t (3.8%) 減少した。

これは、沖合底びき網1そうびき等による漁獲量が増加したものの、その他の刺し網、小型定置網等による漁獲量が減少したためである。

(カ) さんま

漁獲量は22万1,470 tで、前年に比べ6,117 t (2.8%) 増加した。

これは、さんま棒受網等による漁獲量が増加したためである。

(キ) するめいか

漁獲量は16万8,207 tで、前年に比べ7万4,055 t (30.6%) 減少した。

これは、沖合底びき網1そうびき、沿岸いか釣、小型定置網等による漁獲量が減少したためである。

(ク) まいわし

漁獲量は13万5,236 tで、前年に比べ4万545 t (23.1%) 減少した。

これは、大中型2そうまき網、中・小型まき網等による漁獲量が減少したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位～4位)

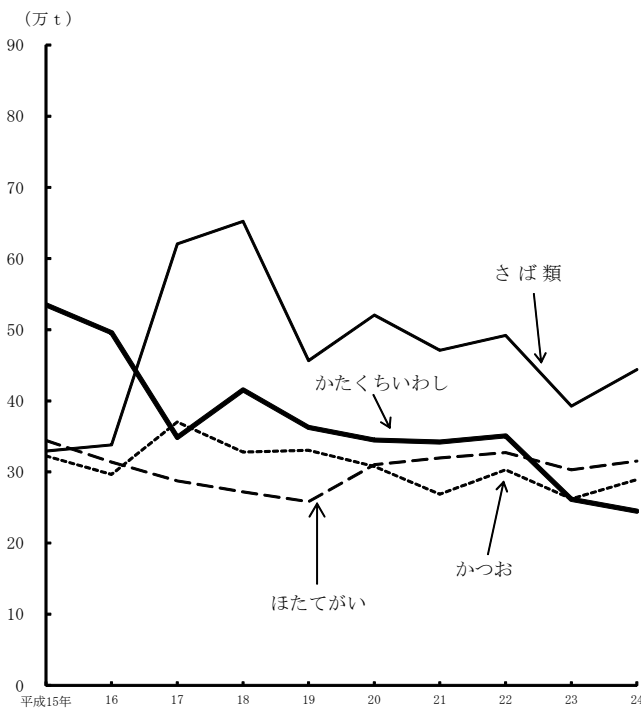
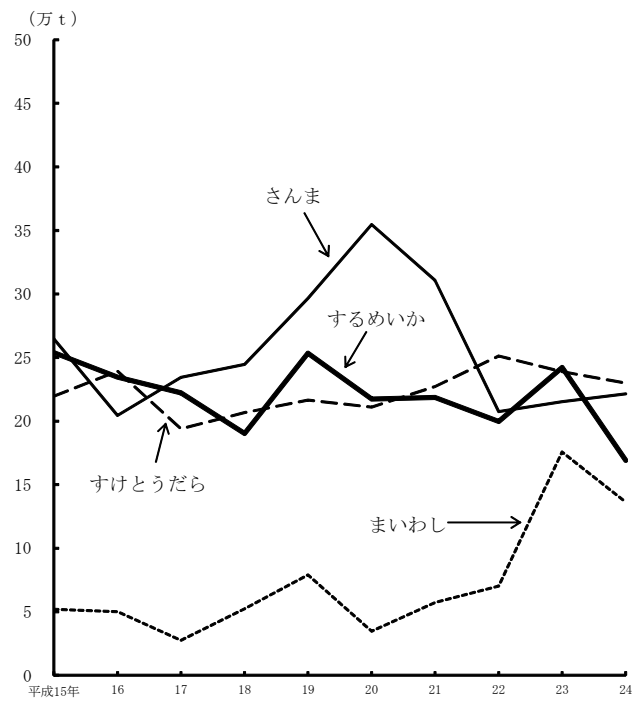


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位5位～8位)



## (2) 海面養殖業

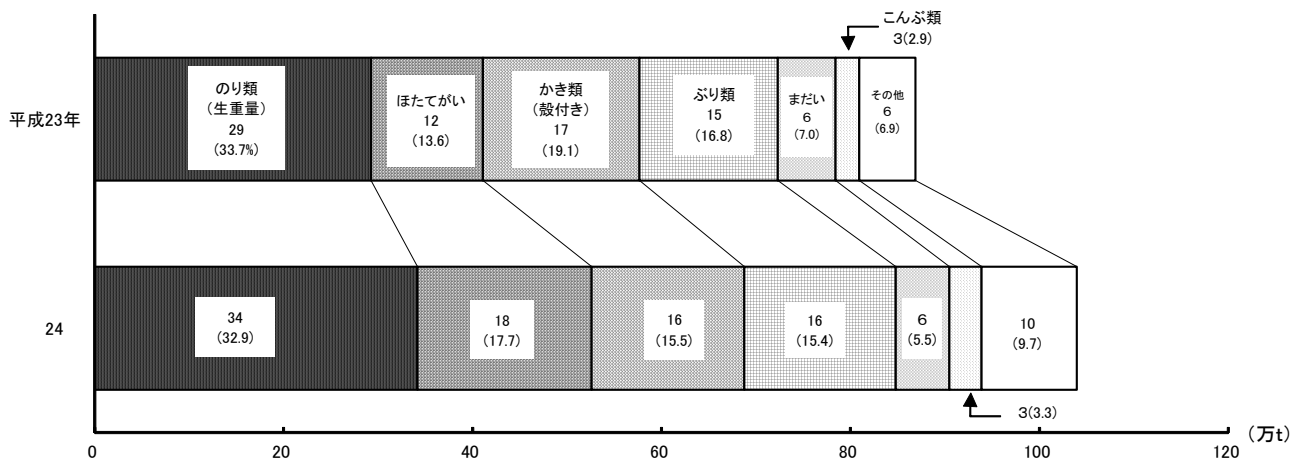
海面養殖業の収穫量は103万9,504 tで、前年に比べ17万784 t (19.7%)増加した。これは、ほたてがい、のり類、わかめ類等の収穫量が増加したためである。

なお、東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は2万3,512 t、宮城県の収穫量は4万3,093 tであり、前年に比べてそれぞれ1万8,982 t (419.0%)、1万3,404 t (45.1%)増加したが、東日本大震災発生前の平成22年の収穫量と比べるとそれぞれ2万7,922 t (54.3%)、8万230 t (65.1%)の減少となっている。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、ぎんざけ、ほたてがい、わかめ類等であり、減少した主な魚種は、まだい、かき類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が32.9%、ほたてがい17.7%、かき類(殻付き)が15.5%、ぶり類が15.4%、まだいが5.5%、こんぶ類が3.3%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



## ア 魚類

収穫量は25万472 tで、前年に比べ1万8,866 t (8.1%)増加した。

## (ア) ぶり類

収穫量は16万215 tで、前年に比べ1万3,975 t (9.6%)増加した。

これは、鹿児島県、愛媛県等において、前年に天然ぶりが豊漁で出荷を抑制し、本年に繰り延べたこと等から増加した。

## (イ) まだい

収穫量は5万6,653 tで、前年に比べ4,533 t (7.4%)減少した。

これは、愛媛県、熊本県等において、ぶりへの魚種転換、廃業等で減少した。

## (ウ) ぎんざけ

収穫量は9,728 tで、前年に比べ9,612 t (8,286.2%)増加した。

これは、宮城県において、東日本大震災により被害を受けた養殖施設が一部復旧したことによる。

## イ 貝類

収穫量は34万5,913 tで、前年に比べ6万984 t (21.4%)増加した。

### (ア) ほたてがい

収穫量は18万4,287 tで、前年に比べ6万5,862 t (55.6%)増加した。

これは、青森県、北海道等において、前年の高水温の影響から回復したこと及び東日本大震災により被害を受けた養殖施設が復旧したこと等から増加した。

### (イ) かき類 (殻付き)

収穫量は16万1,116 tで、前年に比べ4,794 t (2.9%)減少した。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (魚類)

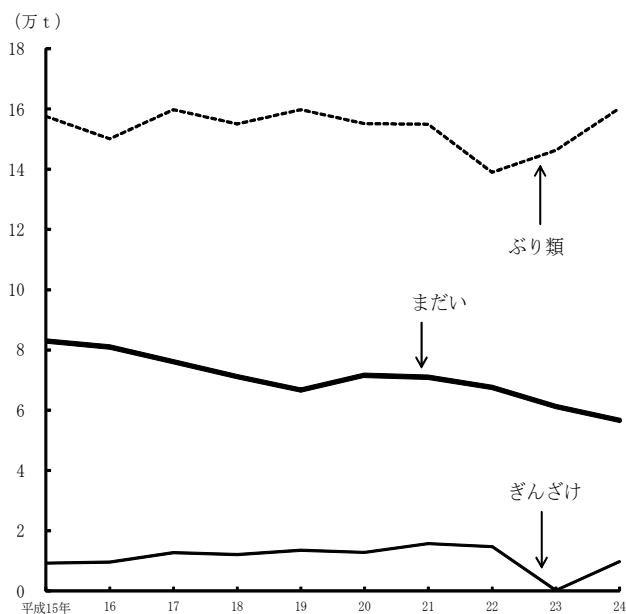
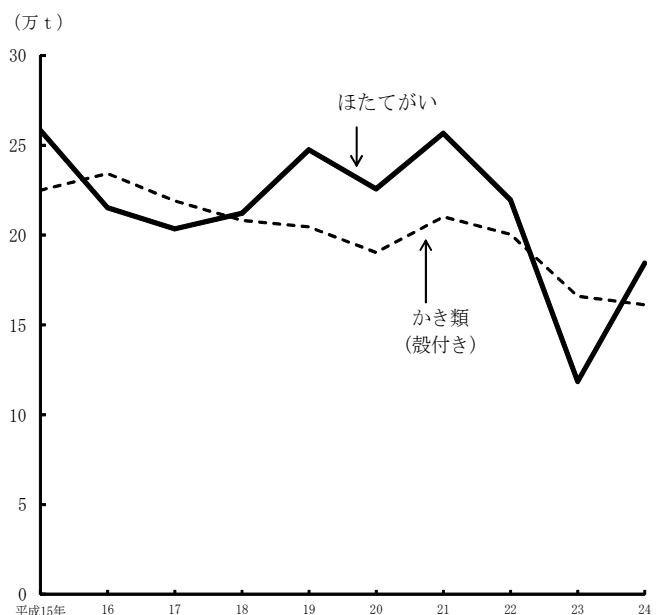


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移 (貝類)



## ウ 海藻類

収穫量は44万754 tで、前年に比べ9万1,016 t (26.0%)増加した。

### (ア) のり類 (生重量)

収穫量は34万1,580 tで、前年に比べ4万9,235 t (16.8%)増加した。

これは、兵庫県、佐賀県等において、適度な降雨により栄養塩が十分で生育が順調であったこと等から増加した。

### (イ) わかめ類

収穫量は4万8,343 tで、前年に比べ2万9,592 t (157.8%)増加した。

これは、岩手県、宮城県等において東日本大震災により被害を受けた養殖施設が一部回復したこと等から増加した。

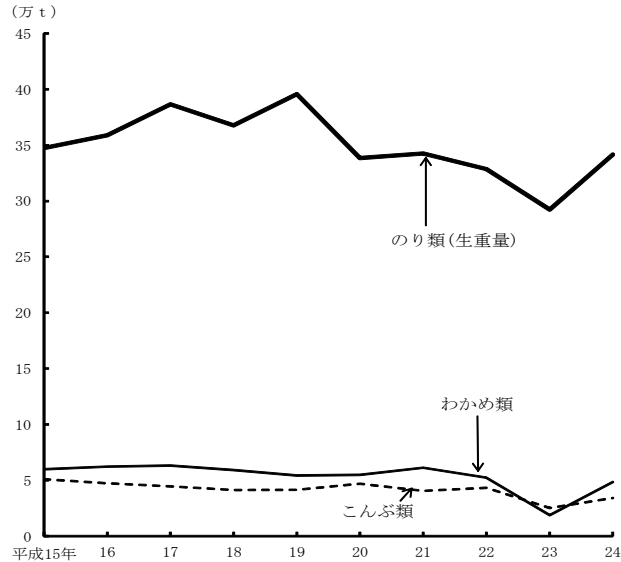
### (ウ) こんぶ類

収穫量は3万4,147 tで、前年に比べ9,052 t (36.1%)増加した。

これは、岩手県等において東日本大震災により被害を受けた養殖施設が一部回復したこ

と等から増加した。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



### (3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要108河川及び24湖沼）の漁獲量は3万2,945 tで、前年に比べ1,377 t（4.0%）減少した。

#### ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は1万7,967 tで、前年に比べ740 t（4.3%）増加した。

また、湖沼における漁獲量は1万4,978 tで、前年に比べ2,117 t（12.4%）減少した。

#### イ 主要魚種別漁獲量

##### (ア) さけ類

漁獲量は1万3,105 tで、前年に比べ2,521 t（23.8%）増加した。

これは、北海道等で増加したためである。

##### (イ) しじみ

漁獲量は7,839 tで、前年に比べ1,402 t（15.2%）減少した。

これは、青森県、島根県等で減少したためである。

##### (ウ) あゆ

漁獲量は2,520 tで、前年に比べ548 t（17.9%）減少した。

これは、茨城県等で減少したためである。

##### (エ) わかさぎ

漁獲量は1,333 tで、前年に比べ111 t（7.7%）減少した。

これは、茨城県、青森県等で減少したためである。

##### (オ) ふな

漁獲量は644 tで、前年に比べ56 t（8.0%）減少した。

これは、茨城県、千葉県等で減少したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量

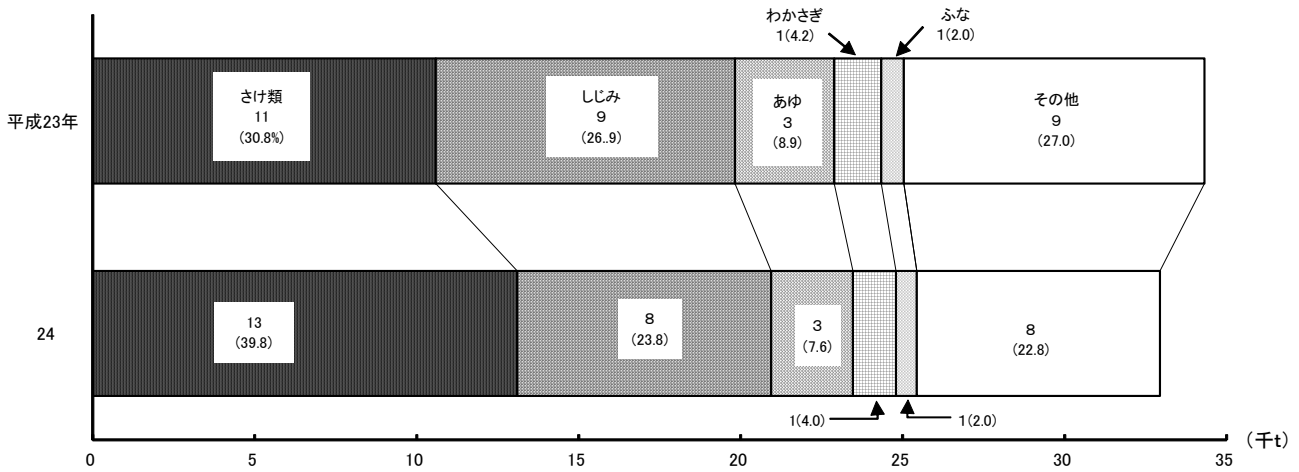
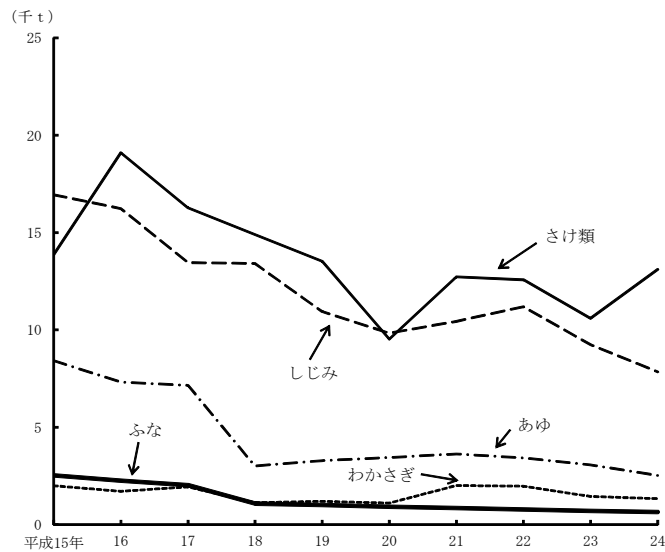


図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収獲量は3万3,957 tで、前年に比べ4,936 t (12.7%) 減少した。

ア うなぎ

収獲量は1万7,377 tで、前年に比べ4,629 t (21.0%) 減少した。

これは、愛知県、鹿児島県等で減少したためである。

イ あゆ

収獲量は5,195 tで、前年に比べ225 t (4.2%) 減少した。

これは、和歌山県等で減少したためである。



ウ にじます

収獲量は5,147 tで、前年に比べ259 t (4.8%) 減少した。  
これは、静岡県等で減少したためである。

エ こい

収獲量は2,964 tで、前年に比べ169 t (5.4%) 減少した。  
これは、茨城県等で減少したためである。

図 11 内水面養殖業主要魚種別収獲量

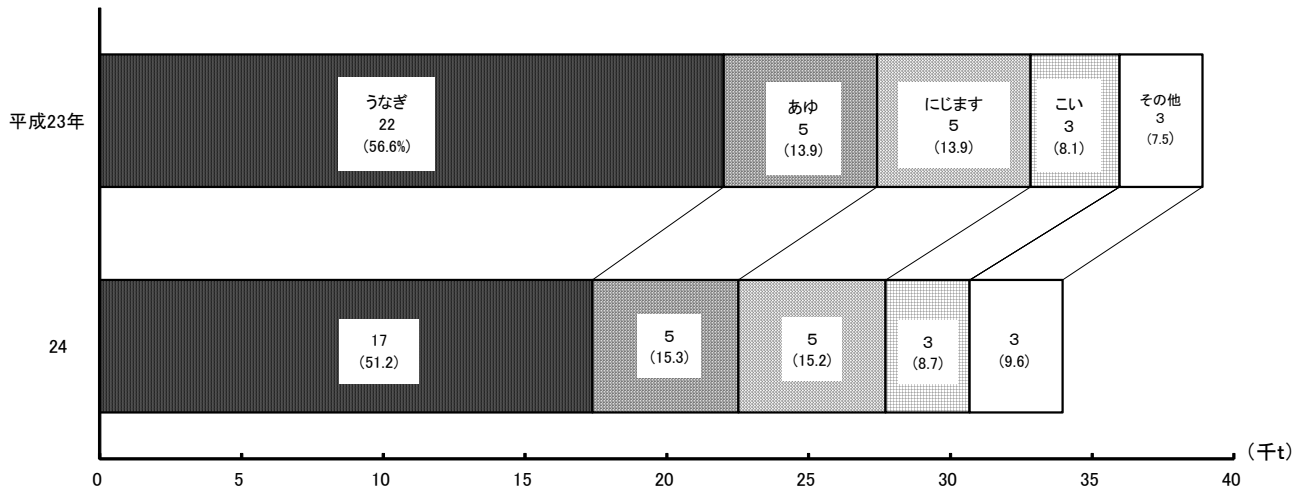


図 12 内水面養殖業主要魚種別収獲量の推移

